

平成 27 年第 24 回

# 札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

平成27年第24回教育委員会会議

1 日 時 平成27年10月 8 日（木） 9 時30分～10時45分

2 場 所 S T V北 2 条ビル 4 階 教育委員会会議室

3 出席者

教 育 長	長 岡	豊 彦
委 員	臼 井	博
委 員	池 田	光 司
委 員	池 田	官 司
委 員	阿 部	夕 子
教育次長	大 友	裕 之
生涯学習部長	長谷川	雅 英
学校教育部長	引 地	秀 美
教育課程担当課長	長谷川	正 人
義務教育担当係長	佐 藤	圭 一
義務教育担当係長	船 着	千 世
義務教育担当係長	伊 達	峰 史
指導主事	末 原	久 史
児童生徒担当部長	松 田	昌 樹
教職員担当部長	檜 田	英 樹
教職員人事担当課長	山 本	真 司
人事担当係長	三戸部	文 彦
人事担当係長	市 川	恵 幸
人事係員	矢 澤	吉 明
総務課長	竹 村	真 一
庶務係長	井 上	達 雄
書 記	岡 部	歌 織

4 傍聴者 5名

5 議 題

報告第 1 号 平成27年度全国学力・学習状況調査 札幌市の調査結果の概要  
について

議案第 1 号 人事について（平成28年度札幌市公立学校教員採用候補者選

考検査の登録者決定について)

**【開 会】**

○長岡教育長 これより、平成27年第24回教育委員会会議を開会します。

会議録の署名は、臼井博委員と池田官司委員にお願いします。

本日は、山中委員から、所用により会議を欠席される旨の連絡がありました。

本日の議案第1号は、人事に関する事項です。

教育委員会会議規則第14条第1項第2号の規定により公開しないこととしたいと存じますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、議案第1号は公開しないこととします。

## 【議 事】

### ◎報告第1号 平成27年度全国学力・学習状況調査 札幌市の調査結果の概要について

○長岡教育長 報告第1号について、事務局から説明をお願いします。

○学校教育部長 今年度の全国学力・学習状況調査の結果の概要がまとまりましたので、ご報告します。

本日、報告する「平成27年度全国学力・学習状況調査 札幌市の調査結果の概要」については、9月14日（月）の教育委員会会議において決定した札幌市の対応方針に基づき作成しています。

資料「平成27年度全国学力・学習状況調査 札幌市の調査結果の概要」をご覧ください。

1 ページ目には、調査の概要として、調査の目的等を示しています。このページについては、昨年度と大きな変更はありませんが、「3 調査の内容」にあるように、今回の調査は、対象が国語、算数・数学、理科の3教科となっています。このうち、国語と算数・数学は、主として知識に関する問題で構成される問題Aと、主として活用に関する問題で構成される問題Bが出題されており、理科は、知識と活用を一体的に出題しています。

また、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査も実施しています。

続いて、2 ページ、3 ページ目をご覧ください。

9月14日（月）の教育委員会会議において、市全体の数値を公表することに決定しましたが、序列化や過度な競争を招かぬよう、できる限りの配慮をしていくという方向性は変わっておりませんので、調査結果の活用等について、今回、新たにページを加えています。

まず、2 ページ目については、本市の目指す学ぶ力の育成について、「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」について説明しています。

続いて、3 ページ目については、調査結果の活用の仕方や公表の仕方について説明するとともに、平均正答率があくまでも教育活動等の一側面であることなど、数値の見方や取扱いについても解説しています。

次に、4 ページ目、「札幌の子どもの『学力』と『学習意欲等』について～結果の全体概要～」をご覧ください。

上段の「学力」という囲みの部分ですが、今年度は札幌市の平均正答率、全国の平均正答率の数値も入れています。

教科に関する調査結果の全体概要は、小学校で、国語及び算数の問題A・B、理科の問題のいずれについても、全国平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内にあり、ほぼ同程度となっています。中学校でも、国語及び数学の問題A・

B、理科の問題のいずれについても、小学校と同じく全国平均正答率とほぼ同程度となっています。

傾向としては、知識・技能の定着については、小学校国語では漢字を正しく書くことなど、算数では分数の計算などに継続的な課題が見られています。

活用に関しては、中学校で全国平均正答率を上回る問題が見られています。一方、根拠を明確にして、自分の考えを書くことや問題解決の方法を説明すること、判断の理由を説明することなどの問題で、全国と同様に誤答率・無解答率が高い状況が見られ、小・中学校ともに課題と考えています。

次に、同じページ下段の学習意欲等についてですが、児童生徒に対する質問紙調査結果からは、学習意欲等に関連して、平成19年度と比較すると、読書が好きな子どもの割合は増加し、全国平均より高い状況。難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している子どもの割合は増加しているが、全国平均より低い状況。将来の夢や目標をもっている子どもの割合は増加しているが、全国平均より低い状況といった傾向が見られており、いずれも、昨年度と同様の傾向が見られていると考えています。

次に、5ページ、6ページ目をご覧ください。

このページは、本調査における、本市の児童生徒の成果と課題を各教科領域別に全国平均正答率と比較する形で棒グラフにより表現しており、昨年度より新たにつけ加えたページとなっています。今年度はさらに、札幌市の平均正答率、全国の平均正答率の数値も入れております。

まず、5ページの小学校については、国語と算数の主として知識に関する問題Aにおいては、国語の話すこと・聞くことと読むことの2つの領域を除き、全ての領域で平均正答率が6割以上となっています。

一方、主として活用に関する問題Bにおいては、算数において、全国と同様、平均正答率が低い傾向にあり、課題があると捉えています。

理科については、エネルギー領域のみ平均正答率が6割以上となっています。

次に、6ページの中学校をご覧ください。

主として知識に関する問題Aにおいては、国語の全ての領域で平均正答率が7割以上となっており、数学は全ての領域で6割以上となっています。

一方、主として活用に関する問題Bにおいては、国語の書くこと領域において、また、数学の図形、関数、資料の活用の3つの領域において、全国と同様、平均正答率が低い傾向にあり、課題があると捉えています。

理科については、生物的領域のみ、平均正答率が6割以上となっています。

今回、平均正答率が低かった設問の一つとして、小学校算数・問題Bにおける図形領域の問題があります。具体的にどのような問題が出題されているかと申しますと、インデックスの別添をご覧ください。

この $\boxed{5}$ の(1)の問題は、長方形の面積を2等分する考えをもとに、分割された2つの面積が等しくなる理由を記述する設問となっています。この問題の、全国の平均正答率は1割強の状況で、札幌市においても全国と同様の傾向にあります。このように、平均正答率の低い問題をほかにも見ていくと、説明するなどの記述式の問題が多い傾向にあります。

前に戻っていただきまして、7ページから12ページにかけては、各教科の領域ごとの結果概要や、そこから明らかとなった課題、改善の方向を記載しています。

まず、7ページをご覧ください。

最初に、このページの見方についてご説明します。

本市の概要の欄ですが、今回も、結果については、平均正答率の数値そのものを示すのではなく、左下の記号の意味にあるように、各教科の領域ごとに本市の平均正答率と全国の平均正答率を比較し、 $\pm 3$ ポイントの幅で上回っている、ほぼ同程度であるが、やや上回っているなどの、5段階で示しています。結果の概要を一目で捉えられるよう、上回っているものを「 $\Delta$ 」とするなど記号でも表現しています。

なお、この部分については、慎重にチェックを重ね、複数の目を通して確認した上で記載を確定しました。

次に、今回の調査における課題の欄については、領域の設問等を分析し、今年度の全国平均正答率との比較等において課題となる部分を示しています。その横の改善の方向の欄については、課題を受け、改善すべき指導方法や学習活動を示しています。

あわせて、一番下の表をご覧ください。

ここは、昨年度と同様、領域ごとの状況について、先ほどの5段階の表現で統一して記号化し、今回を含め6年度分の状況を掲載しています。

それでは、以下、教科ごとに本市の概要を中心にご説明します。

まず、7ページの小学校国語についてです。本市の概要の欄をご覧ください。

問題Aの「読むこと」領域において、全国平均をやや上回っている状況ですが、その他の領域については、やや下回っている状況となっています。

今回の調査における課題及び改善の方向は、ご覧のとおりです。

次に、下の表の平成22年度から27年度までの結果を一覧にした表をご覧ください。

問題Aの「読むこと」領域については、平成26年度は全国平均をやや下回っている状況でしたが、27年度はやや上回っている状況となっています。

次に、小学校算数について、8ページをご覧ください。

本市の概要の欄を見ますと、問題Aの「数と計算」では、平成26年度は全国

平均をやや下回っている状況でしたが、27年度は下回っている状況になっております。問題Aの「数量関係」については、26年度はやや下回っている状況でしたが、27年度はやや上回っている状況となっています。

今回の調査における課題及び改善の方向は、ご覧のとおりです。

下の表を見ますと、問題Aの「数と計算」については、これまで全国平均をやや下回っている状況が続いており、課題の1つとして捉えていましたが、今年度はさらに全国平均を3ポイント以上下回っている状況となり、課題としての重要度が増しているものと考えています。

次に、小学校理科について、9ページをご覧ください。

本市の概要については、「物質」領域において全国平均をやや上回っている状況ですが、その他の領域についてはやや下回っている状況です。

今回の調査における課題及び改善の方向は、ご覧のとおりです。

下の表を見ますと、全国平均をやや上回っている領域が1つある状況で、前回調査の平成24年度と同様の状況であると判断しています。

次に、中学校国語について、10ページをご覧ください。

本市の概要については、問題A・Bともに、全ての領域において全国平均をやや上回っている状況となっています。

今回の調査における課題、改善の方向については、ご覧のとおりです。

下の表について、平成26年度と比べ、状況は変わっておりません。

次に、中学校数学について、11ページをご覧ください。

本市の概要の欄を見ますと、問題Aでは「数と式」と「資料の活用」領域においては全国平均をやや下回っている状況で、その他の領域ではやや上回っている状況にあります。問題Bにおいては、全ての領域でやや上回っている状況です。

今回の調査における課題及び改善の方向については、ご覧のとおりです。

下の表ですが、問題Aの「資料の活用」領域については、平成26年度はやや上回っている状況でしたが、27年度はやや下回っている状況となっています。問題Bの「数量関係」領域については、26年度は上回っている状況でしたが、27年度はやや上回っている状況となっております。

次に、中学校理科について、12ページをご覧ください。

本市の概要については、全ての領域について全国平均をやや上回っている状況にあります。

今回の調査における課題及び改善の方向は、ご覧のとおりです。

下の表を見ますと、前回調査の平成24年度と比べますと、全国平均よりも上回っていた「物理的領域」「化学的領域」がやや上回っている状況となっています。



なお、札幌市の取組は、どのような点で成果につながっているのか、無解答が多い問題があるなどの課題が、どのように変化してきているのかなども含めて、この後、詳細な分析を行い、12月には「平成27年度全国学力・学習状況調査『実施報告書』」としてまとめ、教育委員会会議でご報告したいと考えています。

最後になりましたが、本日、この後、本会議の結果を踏まえ、確定したものについて、各学校に通知するとともに、報道機関への情報提供も予定しています。ご報告については以上です。

○長岡教育長 ただいまの説明に対して、ご質問等がありましたらお願いします。

○池田（光）委員 ここ何年か、いろいろな議論を重ねてきて、今回は数値の公表となりました。改めてこの数値の公表の資料を見ると、明確になって、教育委員会にとっても、子どもたちにとっても非常に目標設定がしやすいなど、とてもよい決断がされたと感じています。

また、その中で、子どもたちにどう還元するかという意味では、方針が12月で、約1年がかりになるので、来年生かすことになるのか、もう少し早められるのか、その辺りのところはいかがかなと思いましたので、お聞きしたいと思います。

○長岡教育長 事務局、いかがでしょうか。

○学校教育部長 全国学力・学習状況調査の結果の概要は、今回、お示しをして、12月に詳しいものをお出しします。今、学校は学ぶ力育成プログラムを独自でつくっていますので、それを踏まえて次年度の改善に向かっていくと思います。このことは、毎年の繰り返しのサイクルをもって、ここ数年、そのような動きになっていますので、そのスパンの中で改善策を打っていただけたらと考えています。

○池田（光）委員 分かりました。

来年度に向けるにしても、可能な限り1か月でも早く、なるべく早い段階の方がよいと思っていますので、その辺りはぜひ考慮していただければありがたいと思います。

○長岡教育長 事務局には、今のご意見について、可能な限り適切に対応して

いただければと思います。

○**学校教育部長** まとまり次第、早急に学校に知らせたいと思います。

○**長岡教育長** ほかにいかがでしょうか。

○**阿部委員** 7ページ目からの今回の調査における課題ですが、これは今回の調査によって浮き彫りになった課題がここに書かれていて、隣の改善の報告は課題に対して事業の方向性としてはこのように改善していきますという意味合いですか。

○**学校教育部長** 課題については、今回の学力・学習状況調査で、特にこのところが課題だと明らかになり、その課題解決に向けて、各学校の授業改善や学力向上策で具体的な手立て、方法として示しています。

○**阿部委員** この改善の方向というのは一般的ですか。私がなかなか理解できないだけかもしれませんが、改善策という意味合いですか。

○**学校教育部長** 改善策となると、こういうような教材を使ってとか、こういう指導体制でというようなことまで具体的に踏み込むこととなりますので、そこは報告書等で示すこととして、指導を充実していくというような辺りとなります。例えば、一番上で言いますと、「共通点や相違点等を整理して考えをまとめるようにする指導の充実」とありますが、こういう方向で国語の授業の充実を図っていくことを示しています。具体策の前の方向性ということで、このような言葉を使わせていただいております。

○**阿部委員** 改善に向けてこういう方向で進んでくださいねという意味ですね。

○**学校教育部長** そうです。

○**阿部委員** 理解しました。

○**長岡教育長** ほかにいかがでしょうか。

○**池田（官）委員** 私も、これまでの議論を踏まえて、数値公表に至ったことは評価できることだと思っています。また、今回から新しく加えた調査結果の

活用等について、特に平均正答率の見方で札幌市の立場できちんと示したことも大変よろしいことではないかと思えます。

さらに、これらの結果から札幌市の学力観というのが、ただ単にいわゆるテストでいうところの知識や技能を問うことではなくて、やはり課題発見、問題解決という方向に向かっていることだと思うのです。

そういった観点から、AとBで、特にBの問題の方が全国的にも正答率が悪いということですが、特にBの活用の問題について別添で例も示していただいています。そういうところに対する対策が非常に重要になってくると思えます。これまでと大きく方向転換をするのは難しいかもしれませんが、特にこういうことに力を入れて各学校に周知していききたいということがもしありましたら、ご紹介いただければと思います。

○**学校教育部長** 4ページの学力に関する課題で、今、ご指摘のありました課題が継続的に見えている部分もあります。例えば、小学校で言うと、知識・技能の定着については課題が継続的に見られているので、私たちのそちらに対する学校への投げかけとして、学習習慣を確立することや、個々に合った指導の充実を図るなど、今後も打ち出していく必要があると思えます。活用に関しては、今、お話がありましたとおり、モデル的な研究も含め、あるいは、例示も含めて、課題探究的な学習については、札幌市として、今後さらなる充実を図っていききたいと考えています。

また、誤答率、無解答率が多いことについても、子どもたちの学習意欲との関連が考えられるので、その分析も様々な角度から行って、誤答率の減少を図っていく研究も進めて、各学校に手だて等を講じていききたいと考えています。

○**長岡教育長** ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○**長岡教育長** それでは、今回はこのような形で数値を公表することとしましたが、これまでも各学校、各生徒には、それぞれの課題、自分の立ち位置などを啓発することは、教育の中で進められてきていたと思えます。今回、さらに分かりやすい形で、札幌市全体の状況を公表することとしましたので、特にAとBを活用することによって今後の学ぶ力の改善に努めていただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、報告第1号についてはよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、報告第1号については以上です。

議案第1号からは公開しないこととしますので、傍聴の方は退席をお願いします。

[傍聴者は退席]

**以下 非公開**